





職人の技に惚れ、 活気ある街に恋する

「第66回一関地産業まつり商工祭」と 「福の市」は10月24、25の両日、一関文 化センターなどで開かれ、多くの家族 連れなどが、買い物や体験コーナーを 楽しみました。

「商工祭」は、一関文化センターとな のはなプラザを会場に、5年ぶりに街な かで開催。市内、近隣市町など約90業 者の特産品、海産物、工芸品などが販売 されました。親子で訪れた厳美の熊谷香 奈枝さん(36)は「農業祭から商工祭に 来ました。子供たちにとっては、シャト ルバスもアトラクション。両方のお祭り を満喫しました」と話してくれました。

また、「福の市」は大町通りを会場に 開催。商店街全体を活気づけようと新 たな催し「いす-1GP一関大会」と「ス うに話してくれました。

商工祭・福の市

イーツまつりinいちのせき | を実施し ました。「いす-1GP-関大会」は、事 務用椅子に座り、脚で地面を蹴って速 さを競う2時間耐久レース。県内外の3 人1組29チームが参戦しました。ポス トマンチームの一関郵便局・高橋正さ ん(26)は「地域を盛り上げたいと思い、 参加しました。想像していたよりもき ついです」と汗を拭いました。

「スイーツまつり in いちのせき」は、 岩手県南・宮城県北地域の菓子・甘味 が一堂に会す催しで、スイーツを対象 にした初の試み。タルトケーキづくり を体験した山目小1年の眞籠杏奈ちゃ んと伶奈ちゃんは「大好きなブルーベ リーケーキ。上手にできた」とうれしそ

恵みの秋を祝い、旬の味覚に舌鼓を打つ

第66回一関地方 農業祭・住宅祭

「第66回一関地方産業まつり農業祭」と「住宅祭」は10月24、 25の両日、市内狐禅寺の市総合体育館を会場に開かれ、大勢の 市民らが秋の実りや多彩なイベントを楽しみました。

今年は、一関文化センターなどを会場にした商工祭と同時開 催。両会場を相互に行き交えるように、無料シャトルバスを運 行しました。

秋の一関を代表するイベントとして66回を数える農業祭で は、地元産の農産物を販売するコーナー、はっと・いものこ汁の 飲食コーナーなどが軒を連ねました。訪れた買い物客らは、生 産者と交流しながら買い物を楽しんでいました。ステージでは、 福島県二本松市の提灯祭りお囃子や人気キャラクターショーな どを開催。親子連れなどが、ステージに声援を送っていました。

加工品を中心に出店した生活研究グループの会員は「来場者 も多く、売れ行きも好調です」とにっこり。親子3人で訪れた山 目の菅原智彦さん(39)は「活気があっていいですね。一関には いろいろなイベントがあって楽しめます」と、親子木工教室で飾 り棚を作った水戸京香さん(南小3年)は「釘の下穴を開けるの が難しかった。大好きなぬいぐるみを飾ります」とうれしそうに 話してくれました。

同会場では「いわて南牛まつり」も同時開催。今年は、地元ブ ランド牛「いわて南牛」のほか、県際連携事業として登米市と栗 原市が「仙台牛」を販売しました。精肉販売のほか、いわて南牛 のどんぶりや仙台牛の串焼きを販売し、それぞれの自慢の味を 来場者にPRしました。

また、住宅祭は「次世代につなげる住まいづくり」をテーマに 市総合体育館で開催。住宅関連企業が最新の設備機器などを 展示し、大勢の家族連れなどでにぎわいました。

会場には、バリアフリー体験、地震体験、建設機械ふれあい コーナーなどを設置。来場者は、興味津々に展示品に見入った り、体験コーナーを楽しんだりしていました。















1 新鮮な野菜が並ぶ直売コーナー/2 木工教室では飾り 棚を製作 / 3 祭りを楽しむ菅原智彦さん親子/ 4 見事な 野菜が並ぶ農産物品評会/5 住宅祭の建設機械の乗車体 験 / 6 笑顔で接客する生活研究グループ/7 最新設備 が並んだ住宅祭 / 8 お目当ての商品を買い求める来場者



第15回京津畑まつり「食の文化祭」は11月 15日、京津畑体育館で開かれ、約1000人が伝 統食や各家庭の自慢料理を味わいました。

料理は、地元住民など約100人が250品を 出品。試食が始まると、皿はあっという間に空 に。川崎町の菅原正さん(62)は「思い出の郷 土食をたくさん味わえた」とにっこり。来場者 は、多彩な料理に舌鼓を打っていました。

晩秋の つ津り畑 山 I あい 15 で 口 里のごちそ \mathcal{O} 化品

Ž



「花泉互市」が11月1日から3日までの3日 間、JR花泉駅前の袋通りで開かれ、市内外か ら訪れた買い物客でにぎわいました。

互市には、旬の農産物、工芸品や花など約90 店が出店。来場者は、店員との会話に花を咲か せながら、買い物を楽しみました。平泉町の小 野寺秋子さんは「野菜の苗を買いにきました。 活気があっていいですね」と話してくれました。

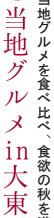






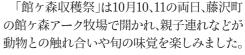
「ご当地グルメin大東」は10月18日、大東 町摺沢地区特設会場で開かれ、来場者約3000 人が市内外の国際色あふれる26店舗の自慢の 逸品を味わいました。

今年も、町内店舗や生産者組織などの人気 グルメのほか、大東高校情報ビジネス科生徒 の「とりもっちいバー」を販売。各店舗の前に は、長蛇の列ができていました。









会場では、名物のアニマルダービーなど多 彩な催しが行われました。ダービーで2位に 入賞した及川真佐君は「入賞できてうれしい。 レースは楽しかったけど、ニワトリは少し怖 かった」とはにかみました。





大地の恵み

39 I-Style I-Style 38